

活動名称 (40字以内)	伊豆の体験活動 ー南伊豆というー地域との連携に学ぶー		
団体名等	大学院農学生命科学研究科附属演習林		
活動区分	<input type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input checked="" type="checkbox"/> 書類審査
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動	募集人数	<input type="checkbox"/> 面接
	<input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動		4 人
	<input type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input type="checkbox"/> 研究室体験活動			
参加資格等	学部学生 (申請時に提出する参加申請書により、意欲的に取り組めると主宰が認める者。)		
活動期間	具体的な内容欄確認	主な活動場所	静岡県南伊豆町近郊
	6 日間		
目的	呑み込みの好い東大生は知った気分になってしまうことがある。知ったかはとても危うい。この体験活動は様々な問題が発生している現場を意識する(見る・感じる)ことの重要性を体感してもらうことを主目的とする。東京には見えづらい・感じづらい里地里山が抱えている諸問題に向き合い、地域の方々と連携して取り組むことを通して、問題に気づく心と問題解決に取り組む実行力を鍛える。何より地域の方々の東大生に向ける期待を実感して欲しい。		
具体的な内容 (800字程度)	<p>東大のレイト・スペシャリゼーションを、何をすべきか決めかねることへのモラトリアムと消極的に受け止める向きがある。そういう人も、ここでこのまま諦めないで欲しい。体験活動を、レイト・スペシャリゼーションに活用するのもよいかも知れない。東大生は受験という規定のルールの上で高い実力を有しているが、かえってその成功体験が足枷となり、未知の世界に飛び込むことに躊躇いがちではなかろうか。体験活動を、自分のルールからあえて外れてみる機会として活用することをお勧めしたい。</p> <p>伊豆の体験活動では、コミュニケーション・他者や社会との連携を重視して取り組み、自分が社会から期待されているという実感、そして自分が社会とのつながりの中で活躍できるという実感を得て、気概・心をたくましく育てて欲しい。東京の様な大都会よりもずっと「人の営みの原点」が見えやすい南伊豆の里地里山を学びの舞台として、そこに暮らす地域の人々との連携を本活動の核心に据えている。獣害や竹林の問題について、地域で諸問題と向き合っているNPOの皆さんと一緒に行動して考えてみよう。そしてそのNPOの皆さんの熱い思いに触れ、意見を交わしていただきたい。大学外に飛び出して、地域NPOとの連携を通して、現実目に向け解決に取り組む体験に没頭しよう。全学体験ゼミと大きく異なり、完結性は追求せず、一点を掘り下げることを重視する。10月の回は獣害に関する取り組みを題材とし、罾を掛けることから始めてインシヤシカを解体し、ソーセージにまで加工する。それを駒場祭にて販売して、この取り組みを発信してみよう。3月の回では林業体験を行う。バイオマス発電が動き出そうという南伊豆町において、木質エネルギー(薪)生産に勤しんだのち、チェーンソーを駆使して間伐作業を体験する。プロの手ほどきを受けるのでチェーンソーも心配無用だ。現代林業に欠かせない高性能林業機械のオペレーションも体験してみよう。</p> <p>① 2019/10/12(土)-14(月・祝) ② 2020/3/24(火)-3/26(木) 10/11(金)、3/23(月)中に伊豆に集合。 ※2回参加を基本とするが、いずれの回のみ参加も認める。</p>		
備考	宿泊先： 樹芸研究所の元職員宿舎 南伊豆町加納457		
参加するための費用*	内 訳(1名当たり)	その他*特記事項は以下に記載	
	交通費 25,000 円 宿泊費 9,000 円 (消耗品) 6,000 円 (食費) 6,000 円 計 46,000 円	奨励金額 29,000 円 (1回参加) 14,500 円	
ウェブサイト等	樹芸研究所: http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/		

